

◎指示があるまで開かないこと。

(令和4年2月5日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 各問題にはaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/>

答案用紙②の場合、

101	101
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input type="radio"/>

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg(1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35%。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ②

(例4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の③を、②は④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	●	2	3	4	5	6	7	8	9
105②	0	1	2	3	4	5	6	7	●	9
③	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

	105	
①	②	③
0	0	●
●	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	●	8
9	9	9

1 担当した患者の症例報告を論文発表することにした。

適切なのはどれか。

- a 患者の国籍を記載する。
- b 経過の年月日を正確に記載する。
- c 顔全体が映った写真を掲載する。
- d 患者に発表に関する同意を取る。
- e 患者氏名をイニシャルに変換する。

2 異常呼吸あるいは息切れを主訴とする患者の所見と原因の組合せについて正しいのはどれか。

- a Coarse crackles ————— 喘 息
- b 胸部打診で濁音 ————— 気 胸
- c 頸静脈の怒張 ————— 右心不全
- d SpO₂ 95 % (room air) ————— 呼吸不全
- e Cheyne-Stokes 呼吸 ————— 上気道閉塞

3 患者の言葉のうち幻聴ではないと考えられるのはどれか。

- a 「部屋に誰もいないのに『もっと勉強しろ』と男が話しかけてきます」
- b 「自分でもおかしいと思うが、近くに線路はないのに電車の走る音がします」
- c 「家族は誰も聞こえないというが、夜になると車のエンジンをかける音が聞こえます」
- d 「カチカチという実際の機械の音に重なって『馬鹿、馬鹿』という女性の声が聞こえます」
- e 「駅の向かい側のホームに立っている友人の仕草から自分の悪口をいっているのがわかります」

- 4 抗菌薬の適正使用について誤っているのはどれか。
- a 培養検査提出後に開始する。
 - b 薬物動態に合わせて投与量を調整する。
 - c 開始時の CRP 値で投与期間を決定する。
 - d 抗菌薬の臓器への移行性を考慮して選択する。
 - e 感受性検査の結果に応じて適切な抗菌薬に変更する。
- 5 意識障害のある患者に行うことが困難な身体診察はどれか。
- a 腱反射
 - b 項部硬直
 - c 対光反射
 - d 鼻指鼻試験
 - e 膝立て試験(下肢ドロッピングテスト)
- 6 治療後の経過に関して主治医以外に相談を希望する場合、助言や情報提供を行う施設はどれか。
- a 保健所
 - b 福祉事務所
 - c 市町村保健センター
 - d 医療安全支援センター
 - e 地域包括支援センター

- 7 妊娠後期に比べ妊娠初期に高値を示すのはどれか。
- a エストロゲン
 - b プロラクチン
 - c プロゲステロン
 - d ヒト胎盤性ラクトーゲン〈hPL〉
 - e ヒト絨毛性ゴナドトロピン〈hCG〉
- 8 加齢に伴う変化について正しいのはどれか。
- a 腎血流量増加
 - b 尿濃縮力低下
 - c 糸球体ろ過値上昇
 - d 硬化糸球体数減少
 - e 機能ネフロン数増加
- 9 医療面接において患者と良好なコミュニケーションを行うために適切なのはどれか。
- a 医学用語を用いて病状を説明する。
 - b 相手が話したことは繰り返さない。
 - c 冒頭から閉じられた質問を用いる。
 - d 電子カルテの画面を見ながら話しを聞く。
 - e 症状が患者の生活に及ぼしている影響を聞く。

- 10 社会保障制度について正しいのはどれか。
- a 診療録の保存義務期間は終診時から2年間である。
 - b 国民健康保険組合の被保険者数は6千万人より多い。
 - c 国民医療費は2000年からの20年間で3倍に増加した。
 - d 介護保険第1号被保険者数は第2号被保険者数より多い。
 - e 結核患者の医療費の公費負担は感染症法に規定されている。
- 11 咽頭痛を訴える患者に確認すべき緊急性の高い随伴症状はどれか。
- a 喀痰
 - b 膿性鼻汁
 - c 唾液の流涎
 - d 顎下リンパ節痛
 - e 38℃以上の高熱
- 12 幼児期以降に筋力低下が明らかになるのはどれか。
- a Werdnig-Hoffmann病
 - b 新生児一過性重症筋無力症
 - c Duchenne型筋ジストロフィー
 - d 福山型先天性筋ジストロフィー
 - e 先天性筋強直性ジストロフィー

- 13 高齢者の個性と尊厳を尊重する介護の在り方について適切なのはどれか。
- a 親しみを込めるように高齢者の名前を「ちゃん」づけで呼ぶ。
 - b 転落しないようにベッドに体幹をバンドで固定し安全を図る。
 - c 排泄の自立が困難な高齢者にトイレの場所を大声で指図する。
 - d それぞれの高齢者の習慣や生活ペースに合わせた介護を行う。
 - e 移動の自立が困難な高齢者に介護老人福祉施設の入所を勧める。
- 14 疾患・状態とそのリスクとなる行動との組合せについて誤っているのはどれか。
- a 乳 癌 ————— 飲酒習慣
 - b 肥 満 ————— 速い摂食速度
 - c 食道癌 ————— 高温物の飲食嗜好
 - d フレイル ————— 高齢者の強い咀嚼力
 - e 骨粗鬆症 ————— 若年女性の過度の食事制限
- 15 成人の安静時所見のうち異常なのはどれか。
- a 腋窩体温 36.2℃
 - b 脈拍 96/分、整
 - c 血圧 112/70 mmHg
 - d 呼吸数 24/分
 - e SpO₂ 97 % (room air)

- 16 経管栄養を目的とした仰臥位での経鼻胃管の挿入について適切なのはどれか。
- a 挿入前に鼻腔にリドカインを塗布する。
 - b 挿入時に患者の頸部を後屈させる。
 - c 標準的な成人では鼻孔から 35 cm の深さまで挿入する。
 - d 挿入後生理食塩液を注入し流入音を確認する。
 - e チューブ先端位置をエックス線写真で確認する。
- 17 小児の二次救命処置を 2 名で行う場合、人工呼吸と胸骨圧迫の比で正しいのはどれか。
- a 1 : 3
 - b 1 : 15
 - c 2 : 15
 - d 2 : 30
 - e 3 : 30
- 18 57 歳の男性。21 歳から 1 日に 20 本の喫煙をしている。45 歳から 49 歳まで禁煙をしたが、1 日に 20 本の喫煙を再開した。
- 喫煙指数はいくつか。
- a 480
 - b 540
 - c 640
 - d 720
 - e 1,080

19 乳房の悪性疾患を疑わせる所見として**可能性が低い**のはどれか。

- a えくぼ徴候
- b 橙皮様皮膚
- c 乳頭のびらん
- d 血性乳頭分泌
- e 乳頭の色素沈着

20 足関節背屈の徒手筋力テストにおいて、足関節の動きを認めず前脛骨筋の収縮のみを認めた。

評価はどれか。

- a 0
- b 1
- c 2
- d 3
- e 4

21 脳脊髄液検査結果を評価する際、脳脊髄液の検査結果と血液の検査結果を比較すべきものはどれか。

- a アルブミン
- b グルコース
- c 好中球数
- d 蛋白
- e 白血球数

- 22 インスリンに関する医学史で最も新しいのはどれか。
- a 膵臓ランゲルハンス島の発見
 - b 動物膵臓から抽出されたインスリンの精製
 - c 遺伝子工学によるヒトインスリン製剤の作製
 - d インスリンのアミノ酸配列および立体構造の解明
 - e 膵臓除去犬が尿糖を含む多尿をきたすことの発見
- 23 息切れと下肢の浮腫を呈し、心不全が疑われる患者に医療面接を行っている。
開放型質問はどれか。
- a 「ご年齢を教えてください」
 - b 「足のむくみに左右差はありますか」
 - c 「いつ頃、足のむくみに気がつきましたか」
 - d 「就寝後、息苦しくなって目覚めることはありますか」
 - e 「今困っていることについてもっと詳しく教えていただけますか」
- 24 退院時要約について誤っているのはどれか。
- a 検査入院では記載を省略できる。
 - b 患者の入院中の情報をまとめたものである。
 - c 退院後の診療のため遅滞のない記載が求められる。
 - d 退院後 14 日以内の記載で保険点数上の加算が認められている。
 - e 医師事務作業補助者が作成し、医師が承認したものは有効である。

25 48歳の女性。右上肢の運動障害を主訴に来院した。昨晚飲酒後、食卓の椅子で右の肘掛けにもたれかかって寝たところ、目が覚めると右手関節の背屈ができなくなっていたため受診した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。身長165 cm、体重53 kg。体温36.3℃。体表に外傷はない。橈骨動脈は両側で良好に触知する。頸部痛はない。右手背に感覚鈍麻がある。右手関節の背屈ができず、右手指のMP関節の伸展ができない。上下肢の他の筋力は正常である。

障害が疑われるのはどれか。

- a 腋窩神経
- b 筋皮神経
- c 尺骨神経
- d 正中神経
- e 橈骨神経

26 54歳の女性。3日前に子宮筋腫のため子宮摘出術を受け入院中である。本日、洗面所で洗顔していたところ突然呼吸困難が生じ、持続している。咳嗽はない。胸痛はない。喫煙歴はない。意識は清明。体温36.4℃。脈拍112/分、整。血圧102/62 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂ 89%(room air)。呼吸音に異常を認めない。

最も可能性が高いのはどれか。

- a 気道異物
- b 気管支喘息
- c 急性左心不全
- d 肺血栓塞栓症
- e 特発性肺線維症

27 83歳の女性。4日前からの右腰部痛と悪寒戦慄を伴う発熱を主訴に来院した。来院時、意識は清明。見当識障害はない。体温 38.6℃。脈拍 102/分、整。血圧 138/88 mmHg。呼吸数 24/分。SpO₂ 97% (room air)。頭頸部に異常を認めない。心臓の聴診で心尖部を最強点とする Levine 3/6 の収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢・末梢に皮疹を認めない。入院時に行った血液培養2セット(4本)からクラスター状に集簇するグラム陽性球菌が検出された。

次に行うべき検査はどれか。

- a 胸部単純CT
- b 頸動脈エコー
- c 経胸壁心エコー
- d 上部消化管内視鏡
- e 腹部単純エックス線

28 84歳の男性。体重減少を主訴に来院した。妻と長男の3人暮らし。検査の結果、大腸を原発とする悪性腫瘍で遠隔転移を認めた。原発巣、転移巣ともに手術による切除は不可能である。本人は告知を望んでいるが、薬物による抗癌治療は望んでいない。長男は告知も積極的治療も望んでいない。主治医は薬物による抗がん治療を行いたいと考えている。認知機能は改訂長谷川式簡易知能評価スケールで22点(30点満点)。

この患者の治療方針を決定する上で最も重要な因子はどれか。

- a 患者の年齢
- b 患者の意向
- c 長男の意向
- d 主治医の意向
- e 患者の認知機能

29 40歳の女性。1か月前に腹部膨満を主訴に婦人科外来を受診し、精査の結果卵巣腫瘍の診断を受け、摘出手術を受けるため2週間前に入院した。身長104 cm、体重25 kg。骨形成不全症のため、年1回整形外科を定期受診している。歩行困難があり日常的に電動車いすを用いている。夫と5歳の男児との3人暮らし。ネットショップを経営している。日常生活をサポートするため数人のボランティアが入れ替わりで支援している。術後経過は良好で術中病理診断の結果は良性であった。入院中に新たな機能障害は認めなかった。

入院中の主治医として退院に向けて必要なのはどれか。

- a 退院後安静などの療養指導
- b 介護福祉士資格を持つヘルパーの手配
- c かかりつけの整形外科担当医へ情報提供
- d 日常生活動作を支援する福祉器具の貸与の手配
- e 在宅リハビリテーションを行う理学療法士の手配

30 80歳の女性。3日前、肺炎のため入院した。肺炎は改善傾向である。夜中にトイレに行こうとして病室内で転倒した。頭部打撲はなく痛みの訴えもない。トイレに行くときにはナースコールを押して知らせるように伝えていたが、ナースコールは押されていなかった。入院後は不眠のため、ベンゾジアゼピン系薬剤を内服していた。入院前のADLは自立していた。

翌日行われたカンファレンスでの提案として適切なのはどれか。

- a 睡眠薬の追加
- b 夜間の身体拘束
- c 離床センサーの使用
- d 後日の家族への報告
- e 尿道カテーテルの留置

31 54歳の女性。半年前から駅の階段を昇るときに胸部に違和感が生じるようになったため来院した。検査の結果、冠動脈形成術が必要であると担当医から伝えられた。患者は「病状は両親や兄弟、および勤務先には伝えないでほしい」と希望を述べた。10年前から会社で勤務しており、一人暮らしである。職場の健康診断では異常を指摘されていない。

医師の患者への適切な説明はどれか。

- a 「会社へは主治医からの報告義務があります」
- b 「あなたが承諾した方に病状をお話します」
- c 「それでは薬物治療のみで対応せざるを得ません」
- d 「血縁者からの病状説明の依頼は拒否できません」
- e 「どのような治療でも血縁者の同意は必須になります」

32 78歳の女性。左側が見えにくいことを主訴に来院した。本日、朝食時に左側にある味噌汁に気づかず、手をぶつけてこぼした。その後、部屋の戸口に左肩をぶつけた。高血圧症と心房細動で内服加療中である。意識は清明。体温 36.5℃。脈拍 80/分、不整。血圧 154/94 mmHg。呼吸数 16/分。SpO₂ 96% (room air)。対座法で左視野障害を認める。四肢の明らかな麻痺は認めない。血液所見：赤血球 452万、Hb 13.1 g/dL、Ht 41%、白血球 8,000、血小板 20万、PT-INR 1.0 (基準 0.9~1.1)。血液生化学所見：尿素窒素 15 mg/dL、クレアチニン 0.8 mg/dL、血糖 102 mg/dL、Na 139 mEq/L、K 3.8 mEq/L、Cl 99 mEq/L。

障害部位はどこか。

- a 視交叉
- b 右視神経
- c 左視神経
- d 右後頭葉
- e 左後頭葉

33 26歳の初妊婦。妊娠24週で妊婦健康診査のため来院した。既往歴に特記すべきことはない。身長160cm、体重66kg(非妊時58kg)。体温37.0℃。脈拍72/分、整。血圧134/72mmHg。子宮底長21cm、腹囲85cm。下腿に軽度浮腫を認める。尿所見：蛋白(-)、糖2+。空腹時血糖値132mg/dL。

まず行う対応として適切なのはどれか。

- a 24時間蓄尿
- b 経口糖尿病薬を開始
- c 血糖値の日内変動を測定
- d 強化インスリン療法を開始
- e 75g経口ブドウ糖負荷試験を実施

34 19歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。河川沿いの堤防道路でオートバイ運転中に対向車と接触し転倒、崖下に転落した。問いかけに対して名前は言える。心拍数122/分。血圧72/50mmHg。呼吸数28/分。SpO₂96%(room air)。右前胸部に圧痛があり、右呼吸音が減弱している。腹部は膨満している。右下肢は外旋位で右下腿の変形と開放創を認める。大量輸液を行っても血圧の上昇がみられなかった。出血の持続と凝固障害の合併が懸念されるため、血液型の確定を待たずに院内にある輸血製剤を用いて輸血療法を行うことにした。

投与が可能な濃厚赤血球液と新鮮凍結血漿の組合せはどれか。

- | 濃厚赤血球液 | 新鮮凍結血漿 |
|------------|----------|
| a O型Rh(+) | O型Rh(+) |
| b O型Rh(+) | AB型Rh(+) |
| c AB型Rh(+) | O型Rh(+) |
| d AB型Rh(+) | AB型Rh(+) |
| e AB型Rh(+) | AB型Rh(-) |

35 88歳の男性。長年の喫煙に起因する慢性閉塞性肺疾患と弁膜症による重症の呼吸不全および心不全のため入院した。疾患自体の改善は難しく、呼吸の苦しさや体幹のたるさなどの苦痛の訴えが強く、本人は緩和ケアを望んでいる。妻と二人暮らしで長男が近所に住んでおり家族関係は良好である。

この患者に緩和ケアを行うにあたり、対応として誤っているのはどれか。

- a 酸素投与の継続
- b 病室の環境調整
- c オピオイド投与
- d 家族の面会制限
- e 苦痛を訴える部位のマッサージ

36 35歳の男性。登山道脇で動けなくなっているところを発見された。ドクターカーで出動した医師が登山口で待機していた。現地の天候は雨、気温は10℃。医師がこの男性に接触した時、意識レベルはJCS II-30。体温(直腸温)31.4℃。脈拍58/分、整。血圧102/62 mmHg。呼吸数30/分。SpO₂は測定できず、末梢循環不全によるものと考えられた。

病院前救護として誤っているのはどれか。

- a 全身を毛布で覆う。
- b 濡れた衣服を脱がせる。
- c アドレナリンを静注する。
- d 加温した輸液を投与する。
- e 清拭して外傷を確認する。

37 28歳の初妊婦。妊娠23週4日、性器出血を主訴に来院した。妊娠初期から妊婦健康診査を受けていたが特に異常は認めなかった。昨夜から下腹部痛を自覚し、今朝性器出血を認めたため心配になり受診した。身長154 cm、体重56 kg(非妊時52 kg)。体温37.1℃。脈拍88/分、整。血圧126/74 mmHg。呼吸数18/分。腹部は妊娠子宮で膨隆し、柔らかい。腔鏡診で分泌物は粘液性で少量の血液が混じっている。経腹超音波検査では正常脈で足位の児を認める。経腔超音波画像(別冊No. 1)を別に示す。

まず行うのはどれか。

- a 外回転術
- b 緊急帝王切開
- c 子宮頸管縫縮術
- d β_2 刺激薬の点滴静注
- e 副腎皮質ステロイドの筋注

別 冊

No. 1

38 64歳の男性。前胸部痛を主訴に来院した。3か月前から坂道や階段の昇降などで前胸部に圧迫感を感じるようになった。5分程度立ち止まって安静にしていると症状は改善していた。本日、夕食後に前胸部に焼けるような痛みが出現した。横になって安静にしていたが、45分程度たっても症状が改善しないため家族とともに救急外来を受診した。意識は清明。身長162 cm、体重47 kg。体温36.7℃。脈拍96/分、整。血圧156/88 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂95% (room air)。心筋トロポニンT迅速検査陽性。心電図(別冊No. 2A)と胸部エックス線写真(別冊No. 2B)とを別に示す。

最も可能性が高いのはどれか。

- a 自然気胸
- b 急性心筋梗塞
- c 逆流性食道炎
- d たこつぼ心筋症
- e 急性肺血栓塞栓症

別冊

No. 2 A、B

39 26歳の女性。動悸と息切れを主訴に来院した。1年前から月経量が増え、3か月前から階段昇降時に動悸と息切れを自覚するようになり受診した。月経周期は28日型、整、順、持続8日間。身長160cm、体重52kg。体温36.4℃。脈拍84/分、整。血圧106/66mmHg。呼吸数22/分。内診で子宮は正常大、両側付属器に異常を認めない。血液所見：赤血球378万、Hb7.2g/dL、Ht22%、白血球6,400、血小板27万。超音波検査で子宮内腔に突出する径2cmの充実性腫瘤を認める。骨盤部単純MRI T2強調矢状断像(別冊No. 3A)とT2強調冠状断像(別冊No. 3B)とを別に示す。将来妊娠を考えている。

鉄剤投与による貧血改善後に行う治療法として適切なのはどれか。

- a 子宮全摘術
- b 子宮鏡下手術
- c 子宮動脈塞栓術
- d 子宮内膜焼灼術
- e プロゲステロン投与

別冊

No. 3 A、B

次の文を読み、40、41の問いに答えよ。

76歳の男性。食欲低下と全身倦怠感を主訴に来院した。

現病歴 : 58歳時に高血圧症と診断され、内服加療を受けていた。5年前から尿蛋白1g/日以上が持続するようになり、腎機能も徐々に増悪してきていた。1週間前から食欲が低下し、全身倦怠感が強くなってきたため、外来通院中の病院を受診した。

既往歴 : 72歳時に狭心症で入院加療歴がある。

生活歴 : 喫煙歴は20歳から40本/日を56年間。飲酒は日本酒1合/日。

家族歴 : 母親が高血圧症で治療歴がある。

現症 : 意識は清明。身長162cm、体重47kg。体温36.4℃。脈拍64/分、整。血圧146/92mmHg。呼吸数16/分。SpO₂96%(room air)。眼瞼結膜に異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。両下腿に圧痕性浮腫を認める。

検査所見 : 尿所見：蛋白3+、糖(-)、潜血(-)、1日尿蛋白3.3g/日。血液所見：赤血球292万、Hb8.8g/dL、Ht28%、白血球5,800、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白6.3g/dL、アルブミン3.4g/dL、尿素窒素86mg/dL、クレアチニン8.4mg/dL、eGFR6mL/min/1.73m²、尿酸9.8mg/dL、血糖113mg/dL、Na131mEq/L、K7.2mEq/L、Cl104mEq/L。CRP0.8mg/dL。胸部エックス線写真で心胸郭比51%。

40 血液透析を開始するため右内頸静脈から透析用カテーテルを留置することとなった。超音波ガイド下にカテーテルを挿入中、患者の体動がみられ、胸が苦しいとの訴えがあった。

患者の意識と呼吸状態の確認とともにまず行うべきことは何か。

- a SpO₂の確認
- b 胸部造影CT
- c Dダイマー測定
- d フロセミド静注
- e ジアゼパム静注

41 この患者への処置中に発生した事象として考えにくいのはどれか。

- a 気胸
- b 血胸
- c 空気塞栓
- d 急性大動脈解離
- e 血腫による気道狭窄

次の文を読み、42、43の問いに答えよ。

32歳の男性。左前腕を受傷し救急車で搬入された。

現病歴 : 飲酒した状態で入浴し、浴槽から出た際にふらついてガラス戸に倒れ込み、ガラス片で左前腕屈側に受傷した。物音に気付いた家人が上腕部をタオルできつく縛って止血し、救急隊を要請した。

既往歴 : 小児喘息の既往がある。

生活歴 : 喫煙は20本/日を12年間。飲酒はビール1,000 mL/日。

家族歴 : 父親が糖尿病。

現症 : 酩酊状態だが会話は可能である。身長172 cm、体重67 kg。体温37.2℃。心拍数84/分、整。血圧120/68 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 98 % (room air)。搬入時、上腕はタオルで駆血された状態で、創部からの出血は止まっていた。受傷から80分経過していた。眼瞼結膜に異常は認めない。

42 上腕部のタオルを外すタイミングで適切なのはどれか。

- a 搬入後直ちに。
- b 画像所見を評価してから。
- c 血液検査の結果を確認してから。
- d 抗菌薬の投与を終えてから。
- e 手術を開始するとき。

43 血液をふき取った後の創部の写真(別冊No. 4)を別に示す。

神経断裂を疑う所見はどれか。

- a 創部の強い疼痛
- b 指先の知覚脱出
- c 腕橈骨筋反射の低下
- d 手関節自動伸展が不可能
- e 損傷部位より末梢の浮腫

別 冊

No. 4

次の文を読み、44、45の問いに答えよ。

78歳の女性。息切れを主訴に来院した。

現病歴 : 65歳で事務職を退職するまで毎年、健康診断を受けていたが、異常を指摘されたことはなかった。4年前に感冒症状で自宅近くの診療所を受診した時に、心雑音を指摘されたが精査はされていない。趣味で卓球をしていたが、1年ほど前から競技中に胸部圧迫感を自覚するようになった。1か月ほど前から買い物のためスーパーまで15分程度歩いていく途中で息切れを自覚するようになった。

生活歴 : 喫煙は20歳から65歳まで1日20本。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父が73歳時に脳出血で死亡。母は82歳時に腹部大動脈にステントグラフト内挿術を受けた。

現症 : 意識は清明。身長154 cm、体重54 kg。体温36.8℃。脈拍60/分、整。血圧154/92 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 97% (room air)。眼瞼結膜に異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。呼吸音に異常を認めない。頸部に放散する胸骨右縁第2肋間を最強点とするLevine 3/6の駆出性収縮期雑音を聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

- 44 可能性の高い疾患はどれか。
- a 肥大型心筋症
 - b 動脈管開存症
 - c 大動脈弁狭窄症
 - d 心房中隔欠損症
 - e 僧帽弁閉鎖不全症
- 45 治療方針の決定に役立つ情報に含まれないのはどれか。
- a 自覚症状
 - b 併存疾患の有無
 - c 心エコー検査の所見
 - d 心臓カテーテル検査の所見
 - e MIBG 心筋シンチグラフィの所見

次の文を読み、46、47の問いに答えよ。

20歳の男性。動悸と頭痛を主訴に来院した。

現病歴 : 17歳の時から時々動悸と頭痛を自覚していた。本日、知人の引っ越しを手伝うため家具を運ぼうとしたところ、動悸と激しい頭痛が生じ、内科を受診した。

既往歴 : 大学入学時の健康診断で血圧高値を指摘された。

生活歴 : 大学生。喫煙歴、飲酒歴はない。

家族歴 : 父が高血圧症で治療中。

現症 : 意識は清明。身長172 cm、体重55 kg。体温36.3℃。脈拍132/分、整。血圧192/110 mmHg。呼吸数24/分。著明な発汗を認める。顔面は紅潮している。四肢に冷感を認める。胸腹部に異常を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球463万、Hb 13.2 g/dL、Ht 40%、白血球5,800、血小板22万。血液生化学所見：総蛋白8.8 g/dL、AST 24 U/L、ALT 14 U/L、LD 183 U/L(基準120~245)、尿素窒素17 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、尿酸7.2 mg/dL、血糖101 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 4.2 mEq/dL、Cl 100 mEq/L。CRP 1.2 mg/dL。

46 入院し精査と治療を行うことになった。

この時点で患者に対して医師が説明する事項で省略できるのはどれか。

- a 現在の病状
- b 現在の診断名
- c 研究段階の医療の概要
- d 緊急に行う処置の概要と危険性
- e これから行う検査の概要と危険性

47 入院後、以下の検査結果が得られた。

入院後検査所見：TSH 1.76 μ U/mL (基準 0.2~4.0)、FT₃ 3.6 pg/mL (基準 2.3~4.3)、FT₄ 1.4 ng/dL (基準 0.8~2.2)、アルドステロン 6 ng/dL (基準 5~10)、血漿レニン活性 2.0 ng/mL/時間 (基準 1.2~2.5)、アドレナリン 120 pg/mL (基準 100 以下)、ノルアドレナリン 1,200 pg/mL (基準 100~450)。尿中 VMA 18 mg/日 (基準 1.3~5.1)。腹部超音波検査で左側腹部に径 2 cm の腫瘤像を認める。

経静脈的降圧薬で降圧がみられたのち、最初に投与すべき経口降圧薬はどれか。

- a α 遮断薬
- b アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬
- c カルシウム拮抗薬
- d β 遮断薬
- e ループ利尿薬

次の文を読み、48、49の問いに答えよ。

64歳の女性。意識障害のため救急車で搬送された。

現病歴 : 自宅の脱衣場で意識がないのを夫が発見して救急要請をした。本人が入浴のため脱衣場に行って約1時間後に発見し、嘔吐した痕跡を認めたが、明らかな頭部外傷は認めなかった。救急隊到着時には心停止であったが、胸骨圧迫とバッグバルブマスク換気により自己心拍は再開し、救急搬送となった。

既往歴 : 54歳から高血圧症で降圧薬を服薬中である。

生活歴 : 喫煙は15本/日を44年間。飲酒はビール350 mL/日を週6回。夫と2人暮らし。

家族歴 : 母は85歳時に脳出血で死亡。

現症 : 意識レベルはJCSⅢ-300。身長160 cm、体重54 kg。体温36.0℃。心拍数64/分、整。血圧98/50 mmHg。換気回数10/分。SpO₂ 92% (バッグバルブマスク換気による調節呼吸)。舌根が沈下している。瞳孔は両側ともに径4 mm、対光反射は両側で遅延している。心電図モニターは洞調律であるが、巨大陰性T波を認める。

48 搬入時に優先して行うべきなのはどれか。

- a 気管挿管
- b アドレナリン筋注
- c プレドニゾロン静注
- d グルコン酸カルシウム静注
- e 電氣的除細動(電気ショック)

49 初診時に撮影した頭部単純 CT(別冊No. 5)を別に示す。入院後、ICU に入室して保存療法で経過を観察した。翌日の所見は以下のとおりであった。意識レベルは JCSⅢ-300。体温 37.2℃。脈拍 120/分、整。血圧 94/60 mmHg(昇圧薬投与下)。SpO₂ 98%(F₁O₂ 0.5 で人工呼吸器装着)。瞳孔は左右とも径 6 mm に拡大して固定している。角膜反射、咽頭反射および咳反射がない。顔面の疼痛刺激に対して体動はなく瞳孔も無反応である。

脳死判定のためにさらに行うべきなのはどれか。

- a 頭部 MRI
- b 脳波検査
- c 視覚誘発電位
- d 針筋電図検査
- e 末梢神経伝導検査

別 冊

No. 5

50 慢性腎臓病患者に24時間蓄尿検査を行った。尿量2,500 mL/日、尿蛋白82 mg/dL、尿クレアチニン40 mg/dLであった。

1日尿蛋白量(g/日)を求めよ。

ただし、小数第2位以下の数値が得られた場合には、小数第2位を四捨五入すること。

解答： . g/日

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

